

ヘルパーステーションだいとうのケアレポートNo20をお届けします。

平成22年2月に当事業所内で開いた事例検討会の様子をお知らせします。
事例を4題検討しました。

今回の事例発表はサービス提供責任者が行いましたが、ヘルパー皆で検討することによって、介護のあり方、方法論、多様な視点、ケアプランの意味、個別援助計画の意図しているものなどに触れることが出来ます。また、その他にも個別のケース検討や座学、現場の仕事を通じての学習などによってヘルパーのスキルアップを図っています。

No. 1 <連絡と報告の重要性について>

高齢であるも、ヘルパーを利用しながら長年独居生活を続けている利用者であるが、昨年末より腰痛を訴え動けなくなる日が増えており、今後の本人のADLが大きく変わる可能性が高い。

本人に合った支援を行なう上で、他事業所も入っているケースのため連携を取りながら支援していく必要があるが、どうすれば他事業所との連携がスムーズに取れるか、また家族とのコミュニケーションはどのように取っていくのが良いか検討する必要がある。

No. 2 <自立支援を考えながらどのような支援を行なったらいいのかを検討する>

自立支援を行ないながら、生活意欲低下がみられる利用者に対してこのまま自宅で生活続ける為にまわりとの連携をどのようにとりながら、どの様に支援を行なうべきか。

No. 3 <認知症状の方に、どの様に声掛けし安全を確保するか>

認知症状も見られ車椅子を利用時に、途中で急に「歩く」と立たれる事もあったが、今は声を掛ける事で直ぐに座り直して下さり、途中で立ち上がる事もほとんどなくなってきた。どの様に声掛けをして注意を喚起し、安全を確保したかを振り返る意味で、この事例を検討する。

No. 4 <ケースの課題解決に向けて（認知症状のある方のケースを通して）>

一人暮らしをしたいと思う本人の気持ちをごくまで支える事ができるか、責任者が不安に思ったが課題を少しずつ解決し、現在でも一人暮らしを継続されている。

この事例の課題の解決に向けての過程を振り返り今後の業務にも役立てたいと思い、この事例を検討した。

以上4事例の検討を行いました。No2の検討内容の一部をご紹介します。

- ・ 本人の意思を尊重しながら、他者との連携を図る姿勢の大切さを知った。
- ・ コミュニケーションが色々な課題を解決する足がかりになるのではないか。
- ・ 言語障害があり、他者との会話が遠慮がちだったがヘルパーとの会話の中から生活意欲が向上するような声かけ＝心に沿った声かけが出来たのではないか。
- ・ 本人の服薬に対する意識や食生活、改善の必要性はどうか。
- ・ 本人の意思の確認（自立支援の意欲の確認）が重要だ。
- ・ 生活意欲を向上させる為の声かけ＝具体的な楽しみ、希望を持ってもらいたい。
- ・ 外出の機会をなんとか作れないか？（たとえばヘルパーと）
- ・ 本人がヘルパーに心を開くまでの時間をあせらずに信頼関係は必ず築けると信じた支援を行う。
- ・ 地域の民生委員さんも協力していただくよう働きかけたらどうか？
- ・ 本人さんを理解して行くことの必要性を感じた。
- ・ デイサービスなどの導入の可能性はないか。
- ・ 病気の後遺症を本人がどう受け入れられているか？
- ・ ヘルパーの環境改善なども本人の意欲向上のきっかけになったのではないか。
- ・ 環境改善が本人の自立につながった事とどう影響しているか知りたい。
- ・ 服薬管理等、利用者が能力的に可能な事ができる様に目標を持って支援する事が利用者にも伝わっているか、常に考える姿勢の大切さを感じた。
- ・ 今後支援の中で、新たな課題が出てくると思うので、自立を考え良い方向に支援ができればと考えた。
- ・ 利用者の方が自分でされる事を大切にしたい
- ・ 外に行ってみようと思われ事も今後、必要ではないか。
- ・ 家族の方もよく訪問してくださっているようなので、責任者と家族とのコミュニケーションも大切ではないか。
- ・ 責任者の役割も大きいのがわかった。その中で責任者がヘルパーとの連絡、状況把握を密に行いヘルパーの不安なども含め、解消できればと思う。